



教育ゆりほんじょう

第 6 号
令和5年11月15日
由利本荘市教育委員会
学校教育課
教育支援センター

作品展の開催からだいぶ時間が経ってしまいましたが、たくさんの児童生徒の頑張りの記録として、記事を掲載いたします。お目通しいただければ幸いです。

第51回科学作品展を終えて

9月16日(土)、17日(日)カダーレのギャラリーにおいて、由利本荘市児童生徒科学作品展を開催しました。この作品展は、今年で51回目となる伝統ある事業で、夏休み中の自由研究や授業で制作した作品などを中心に展示し、児童・生徒の科学する心を育むことを目的に行っています。

今年は、市内13の小学校から277作品、4中学校から26作品の合わせて303の作品が寄せられました。小・中とも昨年度より若干作品数は減ったものの、夏休みの長い期間をかけて取り組んだり、前の学年から継続して課題解決に当たってきたりしたものもあり、作品の質の高さが感じられました。市内小・中学校の理科主任等の先生方が審査を行い、32作品を優秀賞、66作品を優良賞に選出し、受賞者には賞状と記念品を贈っています。今後、さらに理科や自然に興味をもってくれることを期待しています。また、今年度は2日間で千人を超える来場者がありました。児童・生徒本人や保護者だけでなく、地域の方々や別件でカダーレに来館した人で足を止めてくださる方もいて、地域の関心の高さもうかがえました。

今回出品された作品の内訳としては、観察・実験に関わるもの157点、観察スケッチ62点、標本10点、理科工作35点、授業関連のもの39点でした。どの分野の作品も、自分の興味・関心や思いをもって仕上げられていたのが印象的でした。

出品割合が全体の半分以上を占める観察・実験に関わる作品は、身の回りの自然現象や生活から出てきた疑問を解決したいという思いからスタートし、その解決のために仮説を立て、検証の方法や内容を検討し、結果をもとにどうしてこのようになったのかを考察するという理科研究の流れを踏まえ、科学的・論理的にまとめられた作品が多くありました。これまでのこの科学作品展や理科研究発表会、学校の授業での問題解決的な学習の実践などにより、児童・生徒に科学する心・科学する力が確実に身に付いてきているからではないかと思えます。

分からないことや疑問に思ったことは、インターネット等で調べることはできますが、自分で調べることで初めて分かることや、直接体験することで気付くこともたくさんあるはずです。これからも自分の体や感覚を使って理科を学んでいってほしいと願っています。作品の制作にご支援いただきました保護者の皆様、学校の先生方に深く感謝いたします。



← ↑ 熱心に作品に目を通す来場者の様子
(文責 尾留川 昭)